

令和7年度 大垣市教育振興基本計画策定・評価委員会 第1回会議録

- 1 と き 令和7年7月25日（金）15:00～17:00
- 2 ところ 大垣市役所6階 6-3、6-4会議室
- 3 出席者 長谷川 哲也委員長、田村 弘司副委員長、佐野 篤委員、
三代 広子委員、廣瀬 龍祥委員 川合 麻美委員、
渡邊 友三郎委員、山崎幸輝委員
- 4 事務局 細江教育長、馬淵事務局長、吉田庶務課長、小倉学校教育課長、
富田教育総合研究所長、鈴木文化振興課長、
立木日本昭和音楽村管理事務所長、吉安庶務課主幹、西田庶務課主事補
- 5 傍聴者 1人
- 6 議 題
- (1) 大垣市第2次教育振興基本計画等について
 - (2) 文化振興について
 - (3) 学校教育について

7 会議録

(1) 大垣市第2次教育振興基本計画等について

資料No.2に基づき、吉田庶務課長が説明。

(2) 文化振興について

資料No.2に基づき、鈴木文化振興課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	次世代のクリエイター育成事業が45ページと、62ページにあるが、再掲など表記をするのが良い。 53ページの考察の1に関して、広報チラシ、ホームページ、メールマガジンとあるが、情報発信の中にSNSが含まれるのであればSNSの利用を積極的にアピールするのが良い。

発言者	発言概要
鈴木 文化振興課長	S N S の記載を追加します。
委員	65ページの考察の2について、「利用者が回復する見込みがない」とあるが、新たなターゲットの設定など分析に努める必要がある。
鈴木 文化振興課長	後期計画では、子どもをターゲットの重点としています。また、満足度調査を、各イベントまたは施設ごとに行っており、満足度を把握したうえで事業展開していきたい。
委員	参加人数や施設利用者人数が記載されているものが多いが、年代別の人数は把握できているか。
鈴木 文化振興課長	アンケートで全員にお答えいただけるわけではないが、おおよその傾向は把握できている。
委員	65ページの考察の2に、「通常の施設運用以外に」とあるが現時点で考えている方法があれば教えてほしい。
鈴木 文化振興課長	集客につながるような新たな事業の実施や、団体への支援による活動の活性化などを考えている。
委員	団体は減っているか。
鈴木 文化振興課長	団体メンバーが高齢化し、後継がなく解散している団体が多くある。そのような団体に対して支援をしていきたい。
委員	58 ページの考察の 1 で、団体客や学校見学が減少したとあるが、どのような団体で、何故かと、今後の対応について教えてほしい。
鈴木 文化振興課長	観光バスを利用する団体客で、関ヶ原古戦場記念館が整備されたことで回遊ルートが変わったことや、法改正によってバス・運転手の確保が困難になったこと、バス費用が高騰したことなども要因の一つと考えている。魅力的な企画や、情報発信をして、様々な方に利用していただくような取り組みを進めていくのが当面の対応策だと考えている。
委員	大垣は良い所が多くあるが、関ヶ原町の宣伝が上手く、観光客が流れている傾向がある。大垣市も、歴史に触れてみたいと思うような宣伝ができると良い。
委員	関ヶ原町と連携するのはどうか。
鈴木 文化振興課長	古戦場記念館と大垣城を含めた西濃地域の諸施設との連携事業も実施している。また西濃圏域で歴史など様々な分野で連携した講座も、かなり昔からやっている。

発言者	発言概要
委員	大垣カルタが浸透していないように感じるため、子どもたちに広める工夫をすると良い。
委員	考察全般に関して、コロナ前の数値に戻りつつあるが、考察が難しい状態になっている。また、コロナ禍が人々の行動意識や価値観を変えたこともあり、右肩上がりではなくなっていくことが考えられる。そのため、考察に質的な評価を入れていく必要がある。具体的には、数値はこうだが、利用者の満足度は9割と高いといったことを考察の中に入れていくことを、次回ご検討いただくと良い。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(3) 学校教育について

資料No.2に基づき、小倉学校教育課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	各行事の実施報告だけでなく、満足度もあると良い。
委員	指標の中には、施設入場者数など、施策を打っても変わりにくい数値と、講師派遣数など、やった成果として表れる数値が存在している。変わりにくい指標には満足度などを考察部分に入れていくと良い。
委員	29ページの「運動やスポーツをすることが好きな子供の割合」が伸びていないのが残念。小さい頃から体を動かしていれば、ある程度スポーツも好きになると思う。
細江 教育長	小さいころから親しむことが重要であり、後期計画では特に重要な位置づけとしている。知・徳・体バランスよく育てたい。
委員	14 ページの考察の1で、「個別最適な学びと協働的な学びのバランスを見直す」とあるが、具体的な推進方策を教えてください。
小倉 学校教育課長	協働的な学びの質を向上するための交流活動が増えているが、何のために交流しているか、という指導側の意図が必要で、まず個人の意見をきちんと持たせた上で、どういう視点で交流するのかを指導することが質を高めることになると考えている。
委員	交流の質を高めようと思うと、個別の学びの質も高めなければいけない。トレードオフの関係にならないよう工夫する必要がある。 P29 の指標 1 に関して、5 割から 6 割の間を行き来する難しい指標であるように感じる。一定数の子どもたちは運動やスポーツが好きだが、苦手な子は経年でみてもあまり変わらない。質的なアウトカムを

発言者	発言概要
	考察に盛り込むことが重要だと考える。
細江 教育長	運動やスポーツが好きになるには、幼少期から運動に親しむことが必要であるが、コロナ禍で外に出て遊ぶことすらできない状況が続いた。今夏から屋内運動場にもエアコンを設置するので、良い方向に動いてくれると思う。
小倉 学校教育課長	運動に関して、成功体験や楽しいと感じるような活動を取り入れていきたい。
委員	生徒たちを見ていると、運動する機会は減っているわけではない。昼休みは、かなりの人数が外に出て遊んでいる。運動をすることで成功体験をし、自己肯定感に結びつけていければ良い。
委員	P 18 の指標 2「いじめはどんな理由があってもいけないこと」が94.9%で、県内他都市と比べても非常に高い。残りの5%の子たちの意識はどうなのか。いじめられる側にも問題があると考えているのか。
小倉 学校教育課長	頭では駄目だとわかっているが、「そう思う」に丸をつけられない子が一定数いる。ひびき合い集会等を通して、人の痛みがわかることや相手の立場に立って考えることを繰り返し指導し、100%を目指したい。
委員	ネガティブな内容に○と答える子は、本音の可能性が高い。残り5%の子にひびく教育をしていく必要がある。
委員	21 ページの「C E F R A1 レベル相当以上の中学生の割合」が80%台で、全国平均を大幅に上回っているのは、スピーキングクエストなどの活動の結果か。
小倉 学校教育課長	小学校から英語教育に力を入れており、教科として英語を進め、繰り返し英語に慣れ親しむ取り組みをしてきた成果が出ている。
委員	この高い評価のPRはしているか。
細江 教育長	積極的にPRしている市等もあるが、出すことが良いのかと考えている。80%の子は良いかもしれないが、20%の子が劣等感を持ってはいけない。 また、教員には毎年、G T E Cの結果を伝えると共に、授業改善に関し指導している。

総合評価について採決。

異議なしのため原案のまま可決。

閉会